

情報科学センターの公式ウェブサイトのリニューアルに携わって

玉井 啓 介*
tamai@kit.ac.jp

はじめに

2018年3月初旬に、情報科学センターのホームページを従来のFreeStyleWiki⁽¹⁾を用いたものから、Wordpress⁽²⁾を用いたものに刷新いたしました。本稿では、その概要および所感について簡単に記録しておきたいと思えます。もちろん、詳細な設計資料につきましては、センター内にて記録保存および共有しておりますが、携わった職員の所感を記録しておくことにも、一定の意義があるように思い、記録しておこうと考えました。



図1 リニューアル前のウェブサイト

リニューアルにあたって

リニューアルの背景について記しておきたいと思えます。FreeStyleWikiを用いていた従来のウェブサイトから、(a)デザインにおいて刷新する点に加え、(b)多くのブラウザで警告が表示されるようになったHTTP(非SSL)⁽³⁾をやめ、(b)常時SSL化を進めるという2点が、このたびのリニューアルの大きな目的でした。デザインそのものを洗練したいという意向ももち

ろんありましたが、図1の通り、FreeStyleWikiを用いていた旧サイトは、メニューが左側に縦長に並んでおり、利用者は上から下に情報を探さなければなりません。この点を改善したい、という思いがありました。各種情報にユーザがアクセスしやすくするために、メニューの再構成も行いました。



図2 リニューアル後のウェブサイト

また、FreeStyleWikiからWordpressへ、XMLやcsvを用いての一括データ移行はできなかったため、データ移行は一から手動で、という形になりました。内容的に古くなっている案内もあったため、結果的にはその修正を行いながらの移行は、今回のリニューアルにとって良かったのではと思えます。

Wordpress テーマの選定

Wordpressに用いるテーマにつきましては、当初は漠然と、「University」「Institute」「Education」といった「大学」「教育」関連のキーワードで探し、いくつかのテーマを試した仮のウェブサイトで、センターの先生方、スタッフのみなさまより意見を伺い、最終的に以下のテーマに落ち着きました。

- Education Hub
<https://ja.wordpress.org/themes/>

* 高度技術支援センター 技術専門職員

education-hub/

テーマ名の通り、多くの教育機関で使用されているテーマのようでしたが、情報科学センターのロゴ(図3)に使用されているカラーをテーマカラーとし、それをウェブサイトに盛り込むことで、ささやかではありますが独自性を出すようにしました。



図3 情報科学センターのロゴ

ウェブサイト公開前の脆弱性診断

コンテンツがおおよそ整った後、本公開前に、脆弱性診断を実施いたしました。脆弱性診断には、WPScan⁽⁴⁾を用い、私以外のスタッフによって、客観的な視点で実施していただきました。詳細は省略いたしますが、主に以下の2点の指摘があり、早急に対応を行いました。

1. ディレクトリ・ファイルの単位でのアクセス制限の徹底
2. Wordpress 編集ユーザが列挙できてしまう

対応実施後、脆弱性が解消されているかどうかを確認してもらい、OKが出たところで公開に踏み切りました。

Confluence との併用

情報科学センターのホームページでは、センターの活動や、提供している様々なサービスの案内を広く周知しておりますが、中にはアクセス制限をかける学内専用ページももちろんあります。IPアドレスによるアクセス制限をかけることで対応しておりますが、中にはユーザ認証をかけ、本学のアカウント所有者にのみ、アクセスを許可するページ、といったより制限を厳しくする必要のあるページもあります。さらには、各種利用申請書ファイル等、改訂が入った際に人の手で改訂日・改訂箇所を記載するといった処置ではヒューマンエラーを招いてしまい、ファイルの版管理に問題が出るとの指摘があり、バージョン管理においてすべての履歴をシステムティックに記録できる、Confluence⁽⁵⁾

と併用する、という形を採っています(図4)。

版管理をしっかりと行うべきページと、システムの各利用手引き、FAQ等もConfluenceを用いています。Wordpressと併用することによって、より情報が適切に管理された状態になったと考えております。



図4 Confluence を用いた申請書一覧画面

おわりに

以上、2018年3月初旬に、情報科学センターのホームページを刷新した背景について、記載いたしました。周知の通り、Wordpressはそのデザインの多様さや利便性の高さの一方、セキュリティ面の脆さがしばしば指摘されます。コンテンツのアップデートと共に、脆弱性情報に注意しつつ、今後も運用していければと思います。

- (1) PerlによるWikiクローンで、ユーザ認証を通し、Webベースでの編集が可能。
- (2) オープンソースのブログソフトウェアとしてPHPで開発されたが、近年はコンテンツ管理システム(CMS)として、多くのユーザに利用されている。
- (3) 通信情報を暗号化しない接続方法。
- (4) RubyによるWordpressの脆弱性スキャンツール。Wordpressはその利便性の高さが評価される一方で、セキュリティ面での脆弱性がしばしば指摘されるため、こうしたスキャンツールによる診断が必須となる。<https://wpscan.org/>
- (5) アトラシアン社(<https://ja.atlassian.com/>)が提供する、Javaによる企業向けWiki(Webベースで編集できるシステム)のこと。様々なコンテンツ作成だけでなく、自動バージョン管理機能を有し、ファイルの版管理に適している。